

平成31年度 学校評価実施報告書

学校名 (桂 中 学校)

教育目標	
『言語能力の育成・言語活動の充実』『温かな心』『たくましさ』を兼ね備えた生徒の育成』	
年度末の最終評価	
自己評価	<p>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</p> <p>学校教育目標の実現に向けて、ある程度の成果は出せたと思われる。学習確認プログラムテストにおいても、高い水準を保てるようになっており、各回での細かな増減はあるものの、学力伸長に向かっていると言える。各教科での学校教育目標の実現に向けての改善は、授業の目当てや振り返りを行うなどの改善を行ってきた。また、生徒アンケートの「各教科で話し合いや意見を発表したり書いたりする活動はよく行われていましたか」の項目ではその結果、前述のような結果が見られたが、まだまだ不十分なところもある。全ての教員が学校生活の中で取り組んでいけるようにしたい。</p> <p>生徒会活動やボランティア活動、道徳教育を通して、他者や弱者を思いやれる優しさや他者を認め受け入れる姿勢を育み、地域との協働作業なども行う中で、自分を成長させるように取り組みを進めた。大きな行事や取組の中では生徒たちの互いに助け合う姿勢や率先して行う姿などが見られたが、普段の生活の中ではいじめ事案などもゼロにはならなかったので、日頃から授業や学校生活の中で、互いを認め合う気持ちなど育成を図らなくてはならない。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>生徒アンケート・保護者アンケートの結果を見ると、前期に比べて、後期にはほとんどの項目でポイントが上昇している。生徒も意欲的に授業をうけたり、学校生活を過ごしてきたことがわかる。また、地域の人にあいさつをするなど、良いことを聞くとうれしく思うし、今後もより一層良いところを伸ばしてもらいたい。</p>

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	8月30日	学校運営協議会
最終評価	3月18日	学校運営協議会

(1)「確かな学力」の育成に向けて『学力向上プラン』

重点目標
<p>学ぶ意欲を高め、学力向上を目指した学習指導を行い、一人一人の人権を大切にし、豊かな感性を身につけさせるとともに、生き方を考えさせる進路指導を推進する。</p> <p>学ぶことの喜びやおもしろさ・楽しさが感じられる授業を目指す</p>
具体的な取組
<p>1. 昨年度に引き続き学校図書館教育の「学習センター機能」を高め、全学年・各教科・領域で学校図書館を活用した授業を最低1回は実施し、また情報メディアセンターとしての活用と充実を図</p>

る。

2. 生徒の思考・判断・表現力と課題解決型・探究型能力を身に付けさせられる授業改善のための校内研修会を実施する。
3. 人権尊重を徹底し、道德教育を充実させ、生き方を考えた進路指導を行う。
4. すべての教員に担当教科の総教Cを中心にした「指導力向上講座」や「夏季研修会」等の教科研修に年間1回は必ず参加することを意識付ける。
5. 学習確認プログラムの意義を十分に生徒に理解させ、計画に基づいた学習活動の重要性を学級単位で説明するとともに、学校で予習シート学習を徹底して行う。
6. 授業開始時の学習のねらいについてはほぼ定着してきているが、終了時のまとめとふりかえりがまだ不十分であるため、教員にそのことを徹底させていく。そのために職員会議や校内研修会で繰り返し意識付けをするとともに、校内巡視・授業観察を行い、現状の実態を把握し、個別に指導していく。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・アンケート項目の教科の授業は（全体的に）わかりやすかった。（特にわかりやすかった教科、わかりにくかった教科は。）
- ・学習確認プログラムの経年データ
- ・あなたにとって朝読書は役に立っていますか？（図書館教育推進委員会の考察）
- ・あなたは家庭学習を頑張っていますか？（子どもたちは家庭学習をよく行っている。）

中間評価

各種指標結果

- ・アンケートでは「授業は分かりやすい」で肯定的な意見が各学年で大半を占めてはいるものの、2年生では約14%が否定的な意見であった。しかし、「授業を大切にしているか」という設問に対しては、各学年で95%近くが肯定的な意見であった。
- ・家庭学習についても行っているのが1年生で70%、2年生で67%、3年生で66%とやや少ない。
- ・朝読書についても、ほとんどの生徒が行ってはいる。
- ・確認プログラムテストでは各学年とも一定の成果が出ており、全市平均よりも高いポイントがみられる。

自己評価

分析（成果と課題）

- ・授業ははじめに受けて頑張ってはいるがわかりにくい内容も混在しているようである。
- ・直接朝読書が学習につながっているわけではない。しかし、読書好きから本が好きになり、図書館へ足を良く運ぶようになってから、図書館で学習するといった傾向も見られる。テスト前には図書館が開放されそこで自習している生徒もいる。

分析を踏まえた取組の改善

- ・教員側が更に工夫をして「分かる楽しみ」を味合わせる授業展開を考えなければならない。例えばタブレットなどを利用し、ITCを活用することでより分かりやすく授業を展開していくようにする。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・アンケートの実施
- ・学習確認プログラムの経年データ

学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>授業参観や学校行事や地域での様子などを見ていると、学校全体が落ち着いて学習している雰囲気がよく分かる。しかし、現状で満足せずに高みを目指して頑張ってもらいたい。</p>
---------	--

最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <p>図書館の「学習センター機能」としては、1年間を通じて、テスト前や午前中授業の午後など、生徒が図書館を利用して学習することができた。</p> <p>各学年で行っている家庭学習の取組も、生徒アンケートの「家庭学習を頑張っていますか」の項目で高い自己評価が出ており、自学自習の取組が浸透してきているのがわかる。</p> <p>生徒評価「授業はわかりやすい」の回答は前期に比べ0.8ポイント上がった。保護者アンケートでは0.1ポイントの増加で、少しではあるが効果はあったと見られる。</p> <p>授業改善については授業の最初と最後に目当てや振り返りを書くなど進めてきたことと、言語能力の育成に向けて、生徒アンケートでは「話し合いや意見を発表したり書いたりする活動を行うことで、授業の内容は理解しやすくなりましたか。」は前期に比べ0.8ポイント上がり一定の改善が見られた。</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>家庭学習については、効果は認められるが、全国比で休日に勉強をしない生徒の率が高く、また、生徒自身と保護者との意識には大きな差がある。特に1年生では、学年として家庭学習の定着に取り組んだ結果、何とか定着してきた。</p> <p>全国学力・学習状況調査や学習確認プログラムの結果を見ても、各学年共に全市平均に比べて本校生徒の学力は比較的高く、校内の取組が一定の効果を上げていると考える。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>教員の授業改善から、まずは始めていきたい。授業の目当てを提示することは、ほぼ全ての教員ができている状況なので、もう一度振り返りを中心に授業の改善を図りたい。</p> <p>学ぶ喜びや楽しみを実感できるような授業に向けて取り組みは、学校の授業においては最大限の努力を各教員が行ってくれている。ICTも積極的に活用し、生徒にとって分かりやすい授業をこのまま続けていきたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>生徒アンケートをみると、「授業を大切にしている」という項目が6.6ポイント（最高7ポイント）あり、高い数値を示している。生徒たちは一生懸命授業に向いて頑張ってくれている様子がよくわかるし、また、生徒が興味を引くような授業を先生方がしてくれているのだということが読み取れてありがたい。このまま頑張ってもらいたい。</p>

（2）「豊かな心」の育成に向けて

重点目標	<p>規範意識を軸として、心温かな優しい気持ちを持ち続けられるよう、日々教育活動の中で意識する。</p>
具体的な取組	<p>1. 生徒会活動をさらに充実させる。また生徒会東北プロジェクト（福島ひまわりプロジェクト）を継続していくことにより、支え高め合う集団づくりを学級・学年・学校単位に拡大する。また、生</p>

<p>徒会活動を通して自治活動の浸透と拡大を図り、自ら考え行動する姿勢を養う。</p> <p>2. 規範意識や豊かな心を育てるため、道徳の時間を中心に道徳教育を進める。道徳推進教師を中心に「考える道徳・話し合う道徳」の授業を全校的に広げていく。なお、今年度より教科として取り組む中で、評価の研究を更に進める。</p> <p>3. 生徒、教職員の4つの行動目標（あいさつ、感謝、時間、ボランティア）遵守を全員で達成する。</p> <p>4. 道徳や特別活動（学級経営、生徒会活動、学校行事）の中に、意図的計画的に「記録、発表、傾聴、意見交流、まとめ」など言語活動を重視した教育活動を実施し、それを道徳の「考える道徳・話し合う道徳」に結び付けられるようにする。そして、人間としてのより良い生き方を探求する力を身につけさせる。</p>	
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の事後感想文や日常観察より考察 ・アンケート項目の、仲間の良いところを見つけようと努力した。仲間を大切にした。学校・学年行事は楽しかったか。楽しみにしている行事は何ですか。等 ・行事等の事後アンケートより考察。 ・道徳推進係会にて検証。 等 	

中間評価

<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果の「仲間の良いところを見つけようと努力した。」は各学年通じて93%と高い数値が出ている。更に実際に「仲間の良いところをみつけた」という設問に対しても各学年とも90%を上回っている。 	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「仲間を大切にした」という設問に対しても98%近く有り、行事や学校生活を通して他者を認め、心温かな優しい気持ちを持ち続けられる場面が多く設定できた。 ・道徳の授業についても各時間、各学年で取り組めており、職員室の中でも意見を交流する声が聞こえてくる。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひまわり活動はそれほど盛り上がることなく終わってしまった。生徒会を中心にもっとアピールする場を設定する必要がある。
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業実施時間数、事後感想文や日常観察より考察 ・アンケート項目の、仲間の良いところを見つけようと努力した。仲間を大切にした。学校・学年行事は楽しかったか。楽しみにしている行事は何ですか。等 ・行事等の事後アンケートより考察。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育大会や文化祭の発表など大変良かった。これは先生方の努力がうかがえる。部活動も頑張っている姿をよく見る。今後とも頑張ってもらいたい。

最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業は毎週確保するようにし、全校道徳も実施した。 ・アンケート項目の「仲間の良いところを見つけようと努力した。」は 6.5 ポイントで、前期よりも 0.8 ポイント上がった。「仲間を大切にした。」は 6.6 ポイントで、前期よりも 0.2 ポイント上がった。「学校・学年行事は楽しかったか。」 6.6 ポイントで、前期よりも 0.4 ポイント上がった。
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>生徒会活動については各委員会を中心に体育大会や文化祭尾など活発に活動することができ、学校・学年やクラスの連帯感などを生むことができた。</p> <p>道徳の係を中心に、評価の仕方について考え取り組むことができた。しかし、道徳教育の充実については全校道徳の実施等、取り組みを進めてきたが、教職員評価では 0.2 ポイント下回ってしまった。生徒の心の変容を見取ることは難しく、今後も研修が必要で、授業後のワークシートから読み取ることや普段の行動を教職員間で共有していく必要がある。</p> <p>生徒の行動目標についてはよくできている。特に外部から来られた方からも「あいさつ」については褒めていただける場面が多かった。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>道徳の時間の丁寧な事前準備を心掛ける。また、授業後の道徳の感想など学年間で共有し、全ての教職員で生徒を見守る体制作りが必要である。</p> <p>生徒会活動については、今後も見直しや改革が必要であると思われる。今までやってきたからという観点ではなく、生徒たちが意見を出し合い精選し取り組みを進める中で、主体的に取り組むを進める生徒会としていきたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>道徳授業の効果が反映しているのか、あいさつなどよくしてくれていて良いと思う。</p> <p>下校時に広がって歩くなどマナー違反もみられた。下校時に友達と一緒に楽しく話をしながら歩いて帰ることは良いことだとも思うので、難しいところもある。行き過ぎの無いようにしてもらったら良いのではないかな。</p>

（３）「健やかな体」の育成に向けて

	<p>重点目標</p> <p>学校教育目標にある心身と心の「たくましさ」を身に付けられる活動の推進</p>
	<p>具体的な取組</p> <ol style="list-style-type: none"> １．運動やスポーツなどの部活動において、規範意識を高めるとともに、体力的精神的にたくましい生徒を育てるために、組織的・計画的な部活動を、ガイドラインに則って推進する。ただし部活動はあくまでも副次的なものであり、優先順位は「学力向上」と「温かな心」の育成である。 ２．毎朝遅刻ゼロを目指して各家庭に協力を求めるとともに、「中学生版早寝・早起き・朝ごはん」を引き続き実践する。 ３．「いのち」の大切さを知り、また、いざというときに何かの役にたてる人材を育てるために、昨年度に引き続き「救命救急講習」を３年生保健授業で３時間実施し、そのうち２時間は西京消防署と協力して、すべての３年生に「救命救急講習（ＡＥＤと心肺蘇生講習）」を実施する。 ４．１・１７や３・１１の節目の日に関する学習を行うとともに、避難訓練や防犯訓練も実施する中で「主体的に行動する態度」と「自分の命は自分で守る行動」について体験的に学習させる。

5. 夏前には「落雷」「熱中症」「食中毒」等の未然防止のため教職員はもとより、生徒にもこれらの安全意識を高めるための学習を実施する。
6. 京都はぐくみ憲章の啓発のため、学校だよりとHPに広く保護者・地域住民にアピールしていく
<div>（取組結果を検証する）各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常観察より考察 ・ 保健室だより、保健委員会新聞の発行回数 ・ 各種大会の競技成績 等

中間評価

自己評価	<div>各種指標結果</div> <p>保健室だより、保健委員会新聞ともに、月1回を基本に発行されている。月1回実施の振り返りシートへの記入。部活動では、昨年より若干減少したものの、比較的に好成績を上げている。</p>
	<div>分析（成果と課題）</div> <p>「遅刻」は昨年同様ほとんどない。保健委員会としても昇降口の消臭活動など活発に活動できている。救命救急の授業がまだできていない。部活動では、各部活動が生徒の自主性を育てながら活動を活発に行っている。また、運動部活動ガイドラインの徹底により、木曜日は学校として部活動を禁止しており、子どもたちへの負担軽減につとめている。</p>
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <p>救命救急の授業を後期に取り入れるように考えていく。朝の不在生徒への連絡など担任と副担任で協力して行っており、連絡体制もできている。PTAや地生連と連携する中で保護者の協力や家庭教育力を高めていく。部活動では、人間形成・健やかな心身の成長に重きを置くことを心掛ける。</p>
	<div>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</div> <p>朝の生徒観察の継続 保健だより、保健委員会の充実 各種大会の競技成績</p>
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <p>遅刻・欠席が少ない。朝の不在生徒への連絡などこまめにやってもらっているが、特定の遅刻が多い生徒にはもっと家庭に踏み込んでいくべき。</p>

最終評価

<div>中間評価時に設定した各種指標結果</div> <p>部活動については、自主性・主体性を基本として、規範意識の向上と心身の健全な育成を目標に活動することができた。</p> <p>遅刻生徒はほぼいないが、まだ学年には1～2名程度の遅刻生徒がいた。</p> <p>救命救急講習は後期で実施することを計画していたが、行事が先に予定されていたため、実施することができなかった。</p> <p>避難訓練は、担当教員が実際に被災地に行き経験したことを語るなど、身近に考えられる取り組みを行うことができた。</p> <p>熱中症予防のため、保健委員会が中心となり、脱水の注意喚起などを行うことができた。</p>
--

Q	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>部活動では陸上部をはじめ、運動部活動も文化系部活動も全市上位入賞を果たしている部活動があるが、決して部活動優先とならないよう、心がけている。しかし、安全面での問題や怪我した後の対応など丁寧に行い、保護者と情報を共有する必要がある。体育の授業でも、最初に体力作りのため筋力トレーニングを取り入れている。</p> <p>生活習慣の確立と直結する「遅刻」はほぼ解消されているが、毎回同じ生徒が遅刻している。家庭状況にももっと深く入り込み、遅刻の原因を探る必要がある。朝の生徒観察は、担任が必ず8時35分には教室に入り、ゆとりを持って教室には入れるように、朝の打ち合わせは短時間で済むようにしている。</p> <p>今年度の避難訓練では、最初に体育館に集まって災害について模擬体験を行った上で訓練を行うことでより効果的に避難訓練を行うことができた。</p> <p>保健衛生関係の啓発活動や冬場の換気の呼びかけなど今後そういった取り組みを子どもたちの主体的な動きに移していきたい。部活動ガイドラインもあり、活動日数や時間は遵守できているが、今後もガイドライン遵守を広めていきたい。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>部活動については活動時間の遵守を行うため、完全下校の時間変更を行う。また、安全面での配慮として、保護者連絡など連携を密に取るように心がけていく。</p> <p>保健だよりや学校保健委員会の運営など、保護者の協力を得ながら、家庭の教育力を高めていきたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>部活動は活発で、生徒たちが頑張っている姿をよく見る。結果についても学校便りなどで知らせてもらっているのが良い。</p> <p>部活動だけに偏らず、文武両道で頑張ってもらいたい。</p>

（４）学校独自の取組

<p>重点目標</p> <p>「桂中ブロック内４校のすべての教職員が、義務教育９年間の成長に責任をもつ」</p>
<p>具体的な取組</p> <p>○桂中ブロック４校校長会議 年間３回（５月・９月・３月）開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・５月⇒目標・年間方針・計画の確認，Ｈ２９年度卒業生の進路状況の報告（出身小学校別進路先データの提供），４校学校行事と地域行事の確認，小中一貫の各種研修会，研究授業のあり方等 ・９月⇒夏季研修の課題，生徒の現状報告，小中合同授業研究会に向けて，全国学力学習状況調査分析の情報共有と小中合同の課題について <p>○桂中ブロック小中各主任交流会開催（年間３回）</p> <p>○小中一貫学校経営構想プランに基づいた教育活動の推進</p>
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中連携主任会による考察 ・各種活動への参加数 ・ＰＴＡ役員会等の考察

- ・ホームページのアクセス数
- ・学校の教育方針や教育活動などが学校だより・学級通信・HP 等

中間評価

各種指標結果	<p>小中連携については主任レベルでの連携は十分に図れているが、それを教職員へ浸透させていくにはまだ時間がかかりそうである。クリーンキャンペーン、落ち葉ひろいなどP T A・教職員・生徒での共同活動は今年もまずまずできている。学校H Pへのアクセス数は、一日平均3 0 0～4 0 0。多い日は2 0 0 0件程度になることもある。学校だより（天鼓の森）の配布総数約1 5 0 0。</p>
自己評価	分析（成果と課題）
	<p>小中一貫教育は、さまざまな形での体制はできており、主任クラスの連携はある程度とれている。各校の行事等の事情で実際に人的交流ができる場面は限られている。環境・美化活動では、P T Aの協力を求めているが、学校規模からすると参加者は若干少ない感じであったが、昨年度からはP T Aからの呼びかけもあり、少しは増えたようである。情報発信は、管理職を中心にホームページの更新・学校便り（天鼓の森）の発行など、積極的に行っている。</p>
	分析を踏まえた取組の改善
<p>小中一貫教育に教職員の相互交流は必要だが、内容・実現方法は、今後も検討が必要。環境・美化活動は、生徒の意識を高め、学校全体として、また、地域や小学校とも合同で取り組めるものを作っていきたい。H Pや学校便りは、画像、図、テキストなどを工夫し、さらに伝わりやすいものを目指す。</p>	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
<ul style="list-style-type: none"> ・小中連携主任会による考察 ・各種活動への参加数 ・P T A役員会等の考察 ・ホームページのアクセス数 ・学校の教育方針や教育活動などのアナウンス。 	学校関係者評価
学校関係者による意見・支援策	
<p>ホームページはいつも拝見させていただいています。学校の様子が知れてよろしい。ただ、もっと色々な場面で学校教育目標や教育方針などアナウンスが足りない所がある。もっと地域にも発信して欲しい。</p>	

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果	<p>夏の研修会を大きな山場として、小中主任連携が月に1度開かれて連携を図っている。また、授業の交流なども行うことができた。</p> <p>クリーンキャンペーン、落ち葉ひろいなどの生徒とP T Aとの協働活動について、例年通り実施できている。</p> <p>H Pへのアクセス数は一日平均2 0 0～3 0 0。</p> <p>学校だより「天鼓の森」は配布総数1 5 0 0。</p>
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	<p>小中一貫教育については、連携を図りながら進めているが、各校の行事等の事情で実際に人的交流ができる場面が少ない。今は代表の主任だけの交流となっているが、各教科での連携を図るなど更に一歩前進した取り組みを考えていくことも必要だと思われる。</p>

	<p>環境・美化活動では、P T Aの協力を得て、保護者の参加はかなり増えたが、夏のクリーンキャンペーンは熱中症のことも考えて来年度は検討したい。</p> <p>情報発信は、管理職を中心にホームページの更新・学校便り「天鼓の森」の発行など、積極的に行っている。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>小中一貫教育のさらなる推進に向け、学校規模が多く教職員も多いので一貫教育は難しい面もあるが、人数が多いからこそその強みを生かせるよう検討を進めていきたい。</p> <p>環境・美化活動は、生徒の意識を高め、学校全体として取り組めるものを目指す。さらに小学校と合同で地域の清掃活動などが実施できないか昨年に続き検討中。</p> <p>H Pや学校便りは、画像、図、テキストなどを工夫し、さらに伝わりやすいものをめざす。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>参観日などで授業をみたり、クリーンキャンペーンで地域やP T Aと共に動いている。今後も「開かれた学校」を目指して頑張って欲しい・</p>

(5) 業務改善・教職員の働き方改革について

<p>重点目標</p> <p>教職員一人一人が勤務時間を意識し、子どもと向き合う時間を十分に確保する。</p>
<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の精選と、会議を精選、効率化する。 ・電話応対時間を午後7時30分までとし、以降は留守番電話に切り替える。 ・教職員の退勤時間を午後8時を目標にし、計画的に業務を進める。 ・働き方改革に関する研修を行う。
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の勤務時間 ・年休取得率

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <p>勤務時間については超過勤務がだんだん少なくなっているが、特定の教員はまだ多い状態にあり、80時間を超える教員もまだいる。年休の取得についても各自が取得しやすいよう夏休みなど工夫している。</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>勤務時間については80時間を超える教員は少なくなっているが、特定の教員を超える傾向にある。今後は仕事が集中しているのか、仕事のやりくりが工夫できていないのかしっかりと見極める必要がある。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>出退勤システムの活用による各教員への指導。退勤時間を明確にする事により、効率よく勤務できるように図る。</p>

	<div>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の勤務時間 ・年休取得率
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <p>5年程前ならオッケーであったものが、今はダメになっていることがある。それだけ時代が大きく変わっている。そのような中、桂中学校は良くなった。しかし、学校の活動だけで止めずに地域にも振って欲しい。自由参加でもいいので大人と会える機会や話しをする機会を増やして欲しい。行事が増えることになるが考えてもらいたい。</p>

最終評価

	<div>中間評価時に設定した各種指標結果</div> <p>学校行事の精選は会議の縮小など少しずつではあるが、行うことができた。</p> <p>留守番電話の切り替えは7時30分に行うようにした。</p> <p>教職員の退勤時間については概ね午後8時までに退勤はできたが、一部の教員が80時間を超えて勤務することが出てきた。</p> <p>働き方改革の研修会は開くことができなかった。</p>
自己評価	<div>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <p>学校行事は大きな行事は内容を精選し、時間を短縮するなど工夫をして取り組んだ。具体的には体育大会の内容を精選し時間短縮や競技を決めるまでの時間や負担の軽減を行うことができた。また、職員会議の回数を年間で1回減らし、負担軽減を行った。今後も仕事の効率化を図るよう常に呼び掛けていきたい。</p> <p>退勤時間が80時間を超える教職員については、ほぼ同じ教職員が該当しており、仕事内容が偏っていないか、また、仕事の仕方の工夫など考える必要がある。</p> <p>働き方改革の研修会は来年度、実施するよう考えていく。</p>
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <p>教職員業務の効率化を検討していく。</p> <p>学校行事の精選を続けて検討していく。</p>
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <p>学校教職員の負担は大きいと思うが、メリハリのある勤務を行っていただき、無理のないように頑張っていたきたい。</p>